

図書波だより

第 48 号

平成 9 年 3 月 28 日
愛媛大学附属図書館

目 次

大学生の読書量をどう見るか…………… 1～2	学術講演会を開催…………… 8
ソウル大学附属図書館見聞記…………… 2～4	愛媛大学附属図書館電子図書館的機能 検討委員会について…………… 8
新生の方へ!! ー図書館を利用するためにー…………… 5	医学部分館ニュース…………… 9
図書館利用申込書について…………… 6	次期附属図書館長に農学部小西永倫教授…………… 9
平成 9 年度図書館オリエンテーション のお知らせ…………… 6	農学部分館ニュース…………… 9
学生希望図書…………… 7	愛媛大学記念文庫…………… 10
私のすすめる本について…………… 7	陶画について…………… 10
	図書館日誌…………… 10

大学生の読書量をどう見るか

飛 弾 昌 人

私の大学教養部時代は、まだ旧制高校の雰
囲気が残っていて、どの学生も乱読をした。
私も乱読の結果、ごく少数の愛読書らしきも
のに遭遇できた。人生の一時期に乱読の経験
も必要だとすれば、大学生時代にのみ可能で
ある。しかし、最近の大学生は読書をしなく
なった、というのが世評である。

ある国立大学に勤務していた時、評議会
で大学生の読書量が議論になったことがある。
席上で、本学の学生はどうか、と質問が出て、
列席していた私は、学生生活実態調査(平成 4
年度)によれば、学部学生の平均値(中央値)
は、「殆ど読まない」(約 22%)を含めて計算す
ると、1か月に 2.2冊になる、と答えると嘆息
が漏れた。

愛媛本学の学生生活実態調査(平成 5 年度)
から同様に中央値を計算してみると、やはり
1か月に 2.2冊となるので、同じ状況である。
(両大学とも、大学の授業で必要な書物及び雑
誌等を除いている。)

昨年 10 月に読売新聞が、読書に関する世論
調査(有権者対象)を実施しているが、「この 1
か月に読んだ本の冊数(雑誌を除く)」の質問
に、47%が読まなかったと答え、これを含め
た中央値は 1.2冊になる。学生の方が 1冊だけ
多いわけで、これでは、学生の読書量が少な
すぎる、と世の人々から嘆きの声が出ること
だろう。

学生生活が、質的に変化したのだろうか？
過酷な受験生活を経るので、読書の習慣が形
成されにくいことは、当然あるだろう。更に
今の学生は、結構忙しいのかもしれない。大
学に入学すると、授業の出席状況が大変良い
(本学の調査では、1年生で 70%以上の出席者
は 98%)。逆に、土日や休暇は、サークル、ア
ルバイト、交友、旅行等で時間がつぶれる。
最近では、ボランティア活動もあるのかもしれ
ない。そして、家にいても、テレビ、ビデオ、
パソコン等、映像文化に取り囲まれて、終日
退屈しない。読書をするには、よほど強い意

思力が必要になるのかもしれない。

大学入学者の同一年齢層に占める割合が、今や50%近くになっており、10%台の頃と同じ感覚で云々するのも無理があろう。しかし、乱読とは言わないまでも、多読の読書体験ができるのは、大学生時代しかないのだ。

私は、今日の学生には、読書への動機づけやガイダンスが必要だと思う。

その第一は、心のフレッシュな入学時に図書の推薦をすることである。この『図書館だより』でも、「私のすすめる一冊」が連載されているが、もっとバラエティある教師により、バラエティある図書を推薦するのが望ましい。

次に必要なことは、シラバスに参考図書を記載して、授業を重視する学生に、良書に接する機会を与えることであろう。本学のシラバスを通覧してみたが、残念ながら参考図書を表示していないものがかかりあった。

また、本学の新しい学部カリキュラムでは、1年次から少人数ゼミ形式の授業が取り入れられているが、是非、指定図書を提示して、授業に出席するには半ば強制的に読書をさせることも必要ではないか。

更に、学内で懸賞論文の募集のようなことは、計画できないだろうか。毎年夏休み前に様々なテーマを提示して論文を募集し、夏休み後に選考して賞を出す。更に論文集の印刷発行をする。論文を書くには、当然何冊もの書物を読まなければならない筈だ。(ただしどの程度の人数の学生が応募するかが問題)

今回、この記事を書くにあたり、過去の図書館だよりをパラパラ捲ったら、「月に10冊以上を読め」「何を読むかは、常に自分自身で決めることである。」「学生が、何か良い本を教

えてほしい、と問う言葉からは、彼が内発的に何らかの問題を抱き、それを自分の判断で解決しようとする主体性を期待することは困難である。」等の言葉が目に入った。ご尤もであるが、しかし読書にもガイダンスがあって良いし、今日の学生には必要なのだ。

私も今は昔になるが、大学に入学した時、大学新聞に推薦図書が掲載されていて、その中にデカルトの『方法序説』があり、早速試しに読んで、感銘を覚えた記憶がある。

去年は、デカルト生誕400周年だったので、久し振りに読み直したが、書きだしの「良識はこの世でもっとも公平に配分されているものである。……正しく判断し、真偽を弁別する能力—これがまさしく良識もしくは理性と呼ばれているところのものだが—は、生まれながらに、総ての人に平等である。」が、立ち所に遠い入学時の記憶を呼び戻してくれた。学生時代は、この書物を読んで、自分も何らかの生活準則を作るべきだ、と考えたりした。今回は、最近の世相、特に日本の集団組織において、しばしば良識を喪失してしまう事例に思いが及び、考え込んでしまった。やはり人が良識を保つには、デカルトの言うように絶えざる懐疑が必要なのだろう。この書物は「われ思うゆえにわれあり」で余りにも有名ではあるが、入学時に推薦記事を目にしなれば、何度か手にすることはなかったと思う。最後に老婆心ながら、学生諸君へ次の言葉を。「悪書を読まぬことは、良書を読むための条件である。人生は短く、時と力には限りがあるから。」(ショーペンハウアー)

(ひだ まさと 事務局長)

ソウル大学附属図書館見聞記

木村 幹

図書館について触れる前に、まず、その母体であるソウル大学について、簡単に触れて置くことにしよう。1946年設置されたソウル大学は、その設置令にも現れているように旧

京城帝国大学を母体とし、京城法科専門学校等9つの公的高等教育機関を統合する形で設置された解放韓国最初の大学である。

毎年5000人以上を募集する韓国有数のマン

モス大学でもあるこの大学は、日本以上に加熱する韓国の受験戦争の頂点に位置する大学でもある。現在の大統領である金泳三がその法科の出身であることにも現れているように、韓国内でのその地位は他と隔絶したものがあ、韓国内のあらゆる分野で群を抜く存在となっている。このような同大学の韓国内での地位こそが、私学の名門、高麗・延世両大学が早慶両大学に比せられるのに対し、同大学が「東大のみでは遥かに不足であり」、「旧七帝大の全てを合わせたような大学」と言われる所以でもある。

当然のことながら、このようなソウル大学の地位は、その図書館の他大学・研究機関のそれに対する優越性として現れてくることとなる。ここで参考までに韓国内の図書館事情について、簡単にまとめておくことにしよう。まず、日本の国会図書館に当たる存在は、韓国においては大きく二つの図書館によって受け持たれている。即ち、国立中央図書館と国会図書館がそれである。後者は、日本の国会図書館と同等の存在ではなく、主として韓国国会が立法作業を行う為の資料を収集している図書館であり、国内発行のあらゆる蔵書を保存し、閲覧に供する役割は、中央図書館によって担われている。蔵書数は、1991年現在で中央図書館が160万巻、国会図書館が70万巻となっている。(逐次刊行物・新聞等を除く)。大学のそれを除く公的図書館の蔵書数のみで言うなら、以下ソウル市立図書館、釜山市立図書館と続くことになる。

厄介なのは此処からである。韓国における中央図書館は、その蔵書数からも容易に想像できるように、「そこに行けばどんな資料でも見ることが出来る」存在ではない。それは学術資料についても同様であり、政府刊行物でさえ所蔵されていないことがしばしばである。このような韓国の図書館事情を考慮に入れるなら、ソウル大学の中央図書館(以下、図書館)が所蔵している、書籍・179万4千巻、逐次刊行物・1万1千種(1996年現在)の資料の価値は、推して知るべしであろう。特に中央図書館とは異なり、ここには所謂一般書は

含まれていないので、事実上このソウル大学図書館が、韓国で最も多くの学術書を保有している、ということが出来る。脱線になるが、それでも尚この数字は少なすぎる、と思われる方もおられようが、これにはもう一つからくりがある。それは、韓国においては、各教官の研究費は給与と別個にではなく、給与に包含された形で供与されるので、各教官が個々人で購入した本は、各人の私物となっているのである。

さて、実際に図書館に入ってみることにしよう。韓国の大学の例に漏れずソウル大学においても、学内全ての「大学」(College)の書籍は、何等かの形で私的に購入しているものを除いて、基本的に図書館が一括して管理しており、我々はどこにどの資料があるかを知る為にも、ともあれ図書館本館に赴かねばならない。因みに、ソウル大学には大きく三つのキャンパスが存在しているが、図書館はそのうち「冠岳キャンパス」に位置している。



図書館本館への坂を登り4階に位置するガラス扉をくぐると、そこはチェック・ポイントである。外国人であれば、部外者はここで旅券の提示を求められることになる。原則的には、部外者は何等かの紹介状が必要であるが、多くの場合事情を説明すれば入館することができる。チェック・ポイントを過ぎると、そこには大凡50台の端末が置かれており、利用者はこの端末を使って書籍の所蔵を確かめることとなる。韓国の図書館の特徴は、日本と比べて電子化が大きく進んでおり、日本統治時代以前の書籍を含めて、基本的には図書館所蔵の全ての著作がこの端末を通じ

て検索することができる。この端末にはインターネットで外部から接続することも出来る。

端末を前にして右往左往している老研究者達を横目で見ながら我々は進むことにしよう。端末では、書名・著者名は勿論、主題やキーワードでの検索もできるので、所蔵の有無や所蔵場所はすぐにわかる筈である。179万巻の書籍のうち、135万巻は本館に所蔵されているので、大抵の場合そのまま本館で調査を継続することとなる。例外はキャンパスが別に設けられている医農学系の書物と、同じキャンパス内でありながら専用の図書館を持つ法学大学系の一部の書籍、そして学内で最も貴重な書籍群である、奎章閣系の資料等である。奎章閣とは、朝鮮王朝の公的資料収集センターであり、この資料は今日、全て京城帝国大学を経て、ソウル大学の同名の図書館別館に所蔵されている。

目指す資料の本館所蔵が確認されたことにして、更に進むことにしよう。これまた韓国の大学の例に漏れずソウル大においても、独立以後の書庫には全ての人が、それ以前の書庫についても大学院生以上であれば基本的に自由に出入りできる。2・3階が学位論文、4階が参考資料及び逐次刊行物、マイクロフィルム、5階が独立以後の書籍、そして6階が旧京城帝国大学蔵書及び新聞、特種文庫類の所蔵となっている。請求番号を頼りに探すことになるが、多くの人が出入りする関係上整理はかなり大まかなものとなっている。見当たらない場合は職員が調査してくれるが、余り多くを期待しない方が良いであろう。また、極めて希にはカードや端末には現れない書籍が存在することもある。整理の悪さを嘆かずに、ない筈の資料があったことに感謝しよう。

さて、幸いにして目指す資料があったとしよう。当然のことながら、部外者は書籍の貸出が許されていないし、学内の者であっても旧京城帝国大学の蔵書については、貸出は不可である。ここで自らカードを買ってコピー室に駆け込むこともできるが、お急ぎの場合、ここには逐次刊行物室の奥にもう一つのコピ

ー室があって、我々はここで職員にコピーを頼むことができることを覚えておくと便利である。分量にもよるが、コピーは2・3日後にはできあがる筈である。また、あなたが何等かの手段で本の貸出に成功した場合には、キャンパスの近くには、無数のコピー屋兼製本屋が存在するので、そこに駆け込むことになろう。3日後には、あなたの本は2倍に増えている筈である。

最後に、所蔵する資料の内容について述べて置くこととしよう。所蔵されている資料の中でも、貴重なものとしては、まず第一に先に挙げた奎章閣文書が挙げられる。朝鮮王朝時代の社会・政治・経済等々を研究する際の一次資料の所蔵において、ここに優るところは存在しない。次に貴重なのは、日本統治時代の資料、就中、旧京城帝国大学その他の所蔵資料である。この資料群の中でも特に重要なのは、次の二つの資料群である。一つは、当時の同時代の資料群であり、この中には朝鮮総督府に関するものや、地理的な関係から良く所蔵されている満蒙関係や、他の旧日本植民地関係の膨大な資料が眠っている。もう一つは旧京城帝国大学の所蔵していた国文学・国史関係の資料群である。京城帝国大学は、戦災を被らなかつた数少ない帝国大学の一つであり、そこには今日に至るまで、第一級の資料が無造作に保管されている。筆者にはその価値を判断する能力はないが、今井源衛九州大学名誉教授によれば、その中には平家物語等の極めて古い写本類も存在すると言う。また、これも見落とされがちであるが、その朝鮮戦争を前後する、独立韓国の混乱期であった1950年代の文献が残されている、という意味でもこの大学の蔵書の価値は十分であろう。

(きむら かん 法文学部総合政策学科

政治システム論 講師)

新入生の方へ!! —図書館を利用するために—

図書館利用申込書と図書館利用証

図書館を利用するためには図書館利用証が必要です。「学生証」の裏側が図書館利用証になっていますが、図書館利用申込書を提出しないと図書の貸出ができません。前もって「図書館利用申込書」を提出してください。

開館時間

授業期 月～金 9:00～21:00
土・日、休日 9:30～17:00
休業期 月～金 9:00～17:00

休館日

休業期の土曜、日曜日と祝日
開学記念日(11月11日)
年末年始(12月28日から翌年1月4日)

図書館資料と探し方の区分

図書館資料	内 容	探 し 方	所在場所
図 書	単行本、全集、叢書、シリーズもの等	OPAC(端末) カード目録	開架閲覧室 書庫
雑 誌	終期を定めず巻、年を追って出版されるもの 雑誌、学会誌、大学紀要、研究報告等	OPAC(端末) 和雑誌の所在箇所の 詳細はカード目録	学部研究室 学術雑誌コーナー 書庫
そ の 他	ビデオ、語学テープ、音楽CD等の視聴覚資料	陳列戸棚を見る	学部研究室 陳列戸棚

図書を借りる時は

OPACで探す カード目録で探す
請求記号と所在箇所をメモする

開架図書

2階と3階(分野によって異なる)の図書を自由に選んで、図書と図書館利用証を資料サービス係カウンターに提出してください。

電算機で貸出処理をして図書と返却日を記入したカードを渡します。

書庫内図書

図書貸出票に必要事項を記入して、資料サービス係に提出してください。職員が書庫から出して図書を渡します。

学部研究室図書

資料サービス係に相談してください。

参考図書

館外貸出はできません。図書館内で利用してください。

図書館を利用するための参考資料

図書館利用案内

LIBRARY GUIDE(留学生用)

オンライン利用者用目録ガイド

貸出冊数と期間

冊数は5冊まで、期間は2週間以内です。

(期限までに返却しないと、遅れた日数分貸出禁止となるので注意してください)

図書の探し方

書名、著者名、主題(分類番号)を手がかりに所在を探してください。

OPAC=On-line Public Access Catalog
(端末機を使って)で探してください。

古い図書はカード目録も探してください。

図書を返す時は

開架図書

図書を資料サービス係カウンターに提出してください。電算機で返却処理をして図書を渡します。返却棚に図書を置いてください。

書庫内図書

図書を資料サービス係カウンターに提出し学部名、学年、氏名を告げてください。

雑誌

館外貸出はできません。図書館内で利用してください。

図書や雑誌が無い時は

学術情報係に相談してください。

図書館資料を複写したい時は

学術情報係カウンターで館内文献複写申込書に必要事項を記入して申し込んでください。

1枚 20円です。

その他

詳しくは図書館利用案内を読んでください。
職員に尋ねてください。

図書館利用申込書について

図書館を利用するためには「図書館利用証」が必要です。新生(学部学生)は、学生証の裏面が図書館利用証です。ただし、「図書館利用申込書」を提出しないと貸出しができません。

学部学生は、4月16日(水)までに「図書館利用申込書」に必要事項を記入し、学生証を提示して、図書館1階の資料サービス係カウンターで手続きをしてください。

なお、平成9年度入学の院生、専攻生等は、「学生証」とは別に「図書館利用証」が必要です。資料サービス係で手続きをしてください。ただし、医学部、農学部の方は各分館で手続きをしてください。

図書館利用申込書受付日時

期間：4月9日(水)から4月16日(水)まで
 ただし、土曜日及び日曜日を除く
 時間：午前9時から午後5時まで
 ○法文学部夜間主コースの方は、下記の
 日時にも受付をします。
 期間：4月14日(月)から4月15日(火)まで
 時間：午後5時から午後6時まで

平成9年度図書館オリエンテーションのお知らせ

図書館では下記の時間帯に新生へのオリエンテーションを行います。
 早く図書館の利用に慣れて上手に利用するためにも全員参加しましょう。

月日	時間	場所	対象	内 容	備 考
4.9 (水)	11:20 ~ 11:30	愛媛県 県民文化会館 メイン ホール	全員	新生に対する図書館の概 要に関する説明	
	13:00 ~ 16:30	附属 図書館	法文学部 昼間主 コース 医学部 農学部	図書館内1~3階の自由見学 OPAC説明：希望者に対 して随時 「図書館利用申込書」の記入、 提出	この時間はサークル紹介と 並行していますが、医学部、 農学部の新生は必ず図書 館見学を済ませてください。
	18:00 ~ 19:00	法文 学部	法文学部 夜間主 コース	法文学部夜間主コース学生 に対する図書館利用につい ての説明	日程の都合で図書館見学の 時間がとれません。4月10日 の午後に時間のある方は10 日に参加してください。
4.10 (木)	13:00 ~ 16:30	附属 図書館	理学部 工学部	図書館内1~3階の自由見学 OPAC説明：希望者に対 して随時	教育学部の新生で時間の あいている方は13時から参 加しても結構です。
	15:00 ~ 16:30	附属 図書館	教育学 部	「図書館利用申込書」の記 入、提出	4月9日の午後に時間のある 方は、その時間に参加して も結構です。

学生希望図書

平成8年度に学生から購入希望があった図書のうち、以下の図書を購入整理して、利用に供しています。図書館では、予算の範囲内で学生の希望に応じる予定ですので、希望があれば購入希望図書の受付ポストに申込書を入れてください。

〔本館〕

- 規制破壊：公共性の幻想を斬る 中条潮著
東洋経済新報社 1995
- 刑事学 新版(現代法律学講座29) 吉岡一男著 青林書院 1996
- 刑法演習講座 前田雅英著 日本評論社 1991
- 刑法各論講義 第2版 前田雅英著 東京大学出版会 1995
- 刑法総論講義 第2版 前田雅英著 東京大学出版会 1994
- 現代権力論批判 スティーヴン・ルークス著 中島吉弘訳 未来社 1995
- 現代社会と実質的犯罪論 前田雅英著 東京大学出版会 1992
- 最新重要判例250刑法 前田雅英著 弘文堂 1996
- 自治体の予算編成：その市民化と活性化 小島昭著 学陽書房 1984
- 政治過程の計量分析(REP叢書7) 小林良彰編 芦書房 1991
- 対日工作の回想 イワン・コワレンコ著 清田彰訳 文藝春秋 1996
- 地方教育行政の民主性・効率性に関する総合的研究 高木英明編著 多賀出版 1995
- 地方政府における教育政策形成・実施過程の総合的研究 白石裕編著 多賀出版 1995
- 地方自治体における政策形成過程のミクロ分析：政策形成の政治行政力学 地方自治研究資料センター 1979
- 地方分権(憲法問題双書3) 兼子仁, 村上順著 弘文堂 1995
- 都市問題の政策科学：アメリカにおける大都市の安心の条件 アーバン・インスティテュート著 東京海上研究所編訳 東洋経済

新報社 1996

- 枢の列島：原発に大地震が襲いかかるとき
広瀬隆著 光文社 1995
- 北欧の地方分権改革：福祉国家におけるフリー
ーコミュニケーション実験 ハラルド・ホルデシュ
ハイム, クリステル・ストールバリ編著 大
和田建太郎 [ほか] 訳 日本評論社 1995
- 民法講義 I, II, IV 近江幸治著 成文堂
1990-1996
- モモ：時間どろぼうと、ぬすまれた時間を人間
にとりかえしてくれた女の子のふしぎな
物語 ミヒャエル・エンテ作 大島かおり
訳 岩波書店 1976
- 隆慶一郎全集 第1巻-第6巻 隆慶一郎著
新潮社 1995-1996

〔農学部分館〕

- 基礎弾・塑性力学 大塚久哲著 共立出版
1985
- 構造解析の基礎 山崎徳也, 彦坂熙共著 共
立出版 1978
- Handbook of Plant and crop stress, ed.
by Mohammad Pessaraki. Marcel Dekker,
1994
- Handbook of Plant and crop physiology,
ed. by Mohammad Pessaraki. Marcel
Dekker, 1995

私のすすめる本について

図書館だより第49号(平成9年6月末発行予定)で学生に読ませたい図書の紹介を予定しています。

本誌の「私のすすめる一冊」を拡大するとともに、夏休みに向けて学生の読書量を増大することをねらいにしています。

各学部の教官方から複数の図書を紹介していただきますよう、よろしくお願ひします

学術講演会を開催

附属図書館では、平成9年1月29日(水)に平成8年度学術講演会を開催しました。

今年度の演題は「情報ネットワークが創る21世紀の図書館」で、講師には学術情報センターの橋爪宏達助教授を招きました。

情報ネットワークの現状から今後の展望、ネットワーク時代の新しい図書館の役割について、時折ユーモアを交えながらの講演となりました。

講演会には、附属図書館電子図書館的機能検討委員会委員をはじめ、学内の教職員や県内の大学図書館職員ら多数が参加し、講演終了後には参加者からの質問が出され、活発な意見交換が行われました。



愛媛大学附属図書館電子図書館的機能 検討委員会について

平成8年11月19日に開催の平成8年度第2回附属図書館委員会において決定した、「愛媛大学附属図書館電子図書館的機能検討委員会」の委員が各学部から選出され、今年度第1回目の委員会が開催されました。

○平成8年度第1回愛媛大学附属図書館電子図書館的機能検討委員会

日時 平成9年1月14日(火) 13:00~14:45

場所 附属図書館視聴覚室

協議事項

- 1 電子図書館的機能の基本方針について
 - (1) 整備のためのビジョン策定
 - (2) 検討する項目
- 2 その他

委員名簿

(平成8.12.20現在)

所属部局	氏名	任期
委員長	植田 規史	8.11.19~9.12.15
法文学部	赤間 道夫	8.11.19~10.11.18
教育学部	平田 浩一	8.11.19~10.11.18
理学部	飯田 晋司	8.11.19~10.11.18
医学部	新盛 英世	8.11.19~10.11.18
工学部	村田 健史	8.11.19~10.11.18
農学部	仁科 弘重	8.11.19~10.11.18
総合情報処理センター	和田 武	8.11.19~10.11.18
附属図書館	済賀 宣昭	8.11.19~
〃	末次 驍	8.11.19~

委員名簿のうち、委員長は3月7日付で鳥井本美医学部分館長に代わりしました。

医学部分館 ニュース

開館時間を延長

医学部分館では、利用者の強い要望に応じて、開館時間の延長をすることにしました。

平成9年4月1日からは、年間を通じて下記のとおり開館しますので、せいぜい御利用下さい。

開館時間

平日 午前9時から午後9時まで

土曜日 午前9時から午後5時まで

なお、休館日は開学記念日(11月11日)、年末年始(12月28日から翌年1月4日まで)と日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する休日です。

医学部分館長交替

植田規史医学部分館長の医学部長就任に伴い、3月1日付けで鳥居本美教授(医学科寄生虫学)が、医学部分館長に就任されました。

電話番号が変わりました

医学部電話取扱い業務のダイヤルイン化に伴い医学部分館の電話番号及びファクシミリの番号が以下のように変わりました。

電話番号

資料情報係長 089-960-5480(ダイヤルイン)

資料情報係 5481(内線)

情報サービス係長 5482(内線)

情報サービス係 089-960-5843(ダイヤルイン)

ファクシミリ 089-960-5484

次期附属図書館長に農学部小西永倫教授

高島庸一郎附属図書館長の定年退官に伴い、次期附属図書館長に、農学部教授小西永倫氏(生物資源政策学)が決まりました。

任期は平成9年4月1日から平成11年3月31日までです。

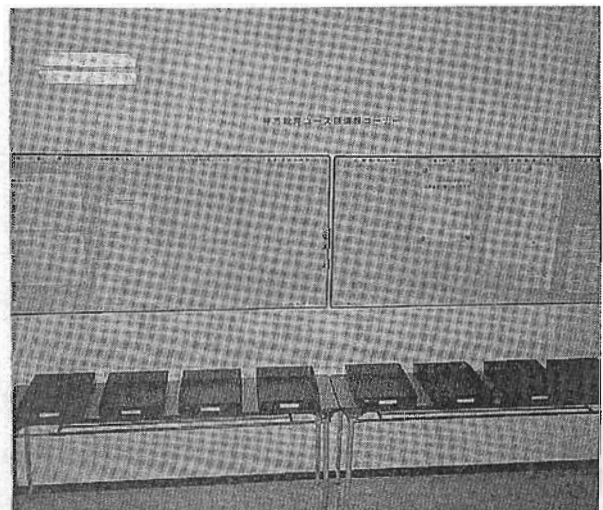
農学部分館 ニュース

専門教育コース別情報提供

コーナーの新設について

農学部分館運営委員会では、学生に対して各専門教育コースの特色、先端技術やトピックス、就職状況等の情報を掲示するコーナーを分館内に設け、学生の分属や目的意識の育成に役立たせることを検討していましたが、この度学部の協力を得て設置しました。

場所は、農学部分館1階のカウンター前、階段室です。情報交換の場として、大いに利用してください。





愛媛大学記念文庫

平成8年8月から平成9年2月の間に下記の先生方から著書を御寄贈いただきました。
(敬称略)

加藤国安

○杜甫論の新構想 許総著, 加藤国安訳・注
研文出版 1996

稲田善紀

○岩盤工学 稲田善紀著 森北出版 1997

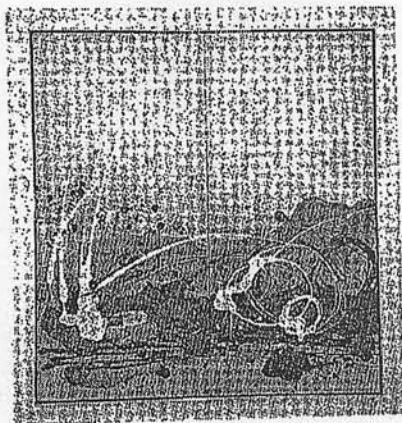
宇都宮純一

○憲法裁判権の理論 宇都宮純一著 信山社
1996

呉羽正昭

○Wintersportgebiete in Österreich und
Japan, by Masaaki Kureha. Instituts für
Geographie der Universität Innsbruck,
1995

陶画について



図書館の玄関に入った所に大きな陶画が飾られました。

これは、殺風景な玄関を潤いあるものに、との高島館長の計らいで寄贈していただいたうちの一点(岩場のリズム)で、作者は故三浦保氏(三浦工業会長)です。

三浦氏は、能楽や陶芸を趣味とされるなど、多芸な経済人として知られており、愛媛能楽協会副会長を勤められました。

陶芸の分野では、1994年と1996年にニューヨークで陶板等の個展を開催されました。もう一点は館長室にあります。

本館の臨時休館について

新入生のオリエンテーションのため下記のとおり閉館します。

4月9日(水)正午から午後9時まで

4月10日(木)午前9時から午後9時まで

図書館日誌(会議, 研修)

- 12月12日 学術情報センターシンポジウム (大阪)
- 1月8日 平成8年度第2回農学部分館運営委員会
- 1月14日 附属図書館電子図書館的機能検討委員会
- 1月23日 国立大学附属図書館事務部長会議 (金沢)
- 1月29日 平成8年度学術講演会
- 1月31日 新目録所在情報サービス説明会 (岡山)
- 2月4日 平成8年度第6回医学部分館図書・情報委員会
- 3月4日 電子図書館サービス説明会 (大阪)
- 3月7日 平成8年度第3回附属図書館委員会
- 3月18日 附属図書館電子図書館的機能検討委員会